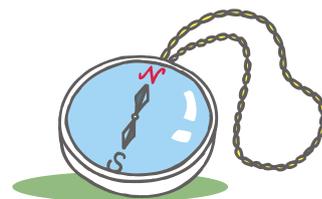


羅 針 盤



第 7 号

令和5年5月29日（月）

◆ 校訓『時を守り 場を清め 礼を正す』

城陽中学校の校訓は、「共に学び 共に生きる」だけではなく、もう一つ「時を守り 場を清め 礼を正す」があります。この言葉は、哲学者であり教育者でもあった森信三（もりしんぞう）が残した言葉です。現代社会においては、「職場再建の三原則」とも言われている言葉です。「職場再建の三原則」とは言っても、その意味は、ごく当たり前の普遍性の高いものであって、教育現場だけでなく企業理念や社会人教育として使われることも多く、生徒の皆さんにとっても近い将来に、しっかりと社会貢献できる立派な社会人として認められる人間となるための教えとしてとして、必ず身に着けておかなければならないことであると思います。それでは、一つひとつの言葉の意味ですが、まず「時を守り」は、時間厳守という意味で、つまり、「遅刻をしない、期日を守る」ということです。定められた時間までには準備を整え、来たるべき時に備えて心を静めて開始を待つということ。また、決められた期日までに求められた対応を行うということでもあります。時を守ることの先には、必ず相手がいるということに気づいてほしいと思います。私たち人間にとって、時間は限られたものです。時間に遅れることや、期日を守れないことは、待っている人の時間を無駄にしまい、相手の信用を失ってしまうこととなります。自らが時間を守ることで、相手を尊重することに繋がっているのです。「時を守り」は、「人を尊重する」ということです。次に、「場を清め」ですが、主に清掃する作業のことを意味しています。つまりは、「整理整頓をして、掃除をほどこす」ということです。掃除をすることの意味は「5K」として表されることもあり、「気づく人になれる、心を磨く、謙虚になれる、感動の心をはぐくむ、感謝の心が芽生える」ということです。やらされていると捉えている場合の掃除では何一つとして気づくようなこともないでしょうが、ここでの掃除の最大の目的は、「気づく」ということです。その場所を使っている人の立場にたって、その場での役割を考えることで改めて掃除することの意味に気づき、工夫がなされ、相手を思いやる気持ちまでもがつかられていくということ。単に身の回りの整理整頓や掃除であったとしても、他を敬い、そして、そのことが奉仕の心に繋がっていくと考えられます。「場を清め」は、「人のために尽くす」という意味であることを知ってもらいたいと思います。そして、最後の「礼を正す」は、挨拶や返事をするということ。これまでも「挨拶」の大切さについては、何度も話をしてきました。「挨拶」という言葉には、「心を開いて、相手に迫る」という意味があり、「挨拶」をすることで良好な人間関係が培われていきます。互いに挨拶を



したり、返事を返してもらえるとといった日常の些細なことではあるかもしれませんが、挨拶をしてくれる人、気持ちの良い返事をしてくれる人には、好感や安心感、信頼感を抱くことへと繋がっていくはず。礼を正すことによって、「人との良好な人間関係を築きあげていく」ことができることを理解してほしいと思います。この3つの言葉に共通して言えること、それは、「相手を思いやる」、あるいは、「相手を敬う」という気持ちです。学校生活における3年間の集団生活の中で、この「時を守り、場を清め、礼を正す」ことをしっかりと意識しながら、誰もが気持ちよく学校生活を過ごせるように、行動してもらいたいと心より願っています。